

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県 上山市

自治体名：山形県上山市

担当課名：上山市教育委員会 生涯学習課

電話番号：023-672-1111（内線317）

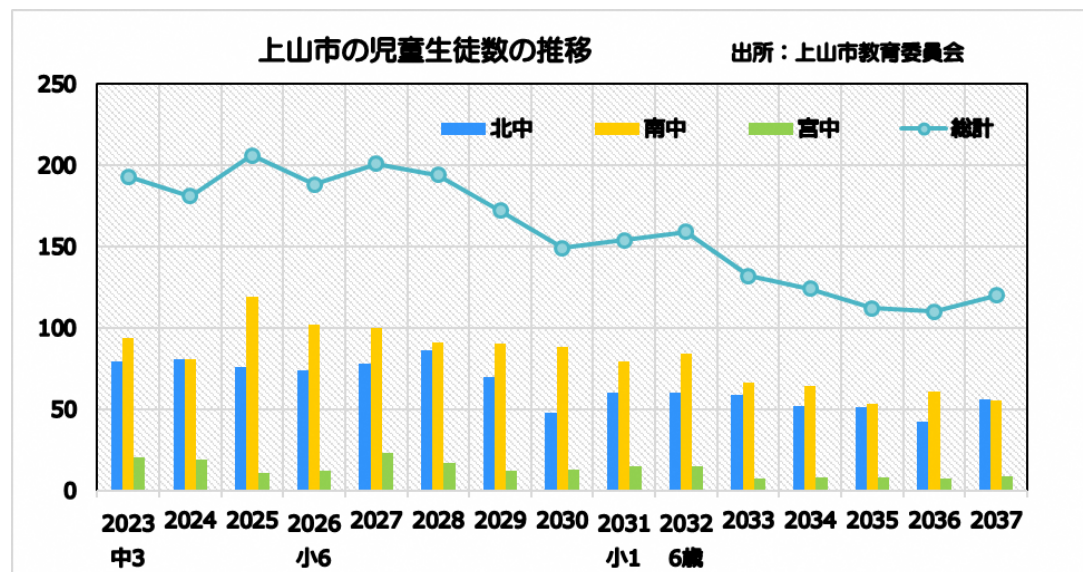
1.自治体の基本情報

基本情報

面積	241 km ²
人口	27,503 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	569 人
部活動数	25 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	検討委員会を設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	ガイドラインを策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

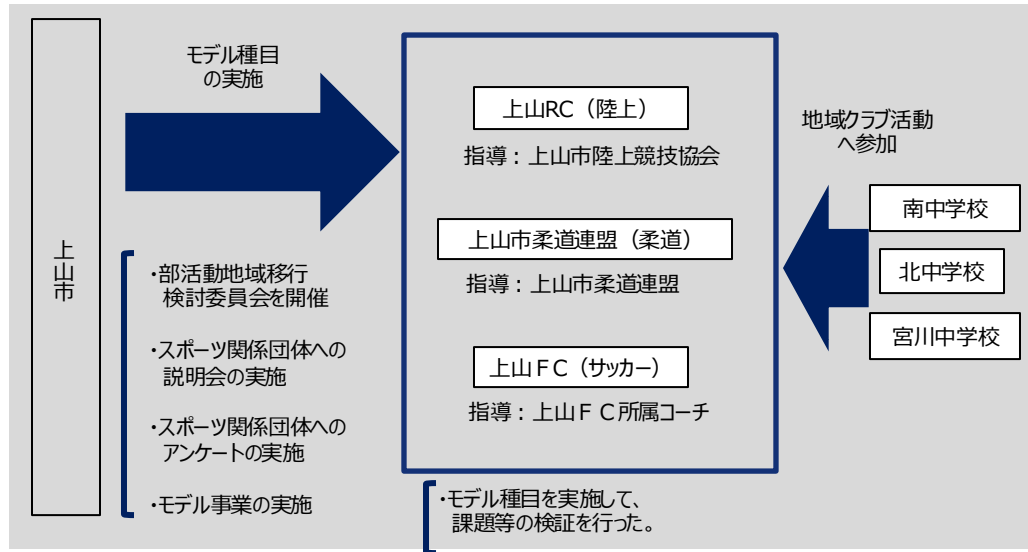
本市は少子化による児童生徒数の減少が激しく、今後5年間の推計で約20%の減少が見込まれる(参照下图)。また、部活動の加入も令和6年4月より任意となり、中学校部活動に参加する生徒数の減少傾向に拍車がかかっている。このため、団体競技などにおいて、単独では通常の練習でやりたい内容ができないといった場合や、対外試合に参加ができないといった部活動が複数出ており、希望者が活動を持続できるように対策が必要である。令和6年度はサッカー種目においては3校合同チームの編成の対策をとった。また、部員不足が続く部活動については、廃部へ向けて来年度の新規入部者募集を停止することも決まっており、今後も廃部が増えると希望する種目に取り組める環境がないといった問題が発生する。これらのことから、生徒が安心して希望の種目に取り組めるよう、また、地域における生涯スポーツの活動の場として、地域での受け皿となる地域スポーツクラブを構築していく。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…学校との調整・連携

◎首長部局

- ・生涯学習課…部活動改革の主幹、検討委員会・モデル事業の実施
スポーツ団体との調整・連携

年間の事業スケジュール

令和6年4月	生徒・保護者向け説明会 部活動任意加入 スタート
令和6年6月	教員アンケート 実施 第一回検討委員会 開催 昨年度までの報告、 令和6年度予定の確認
令和6年7月	モデル事業の実施（～12月） 生徒・保護者アンケート 実施
令和6年9月	休日の部活動月1回連続休養スタート
令和6年10月	部活動顧問アンケート
令和7年1月	スポーツ分科会 開催 部活動顧問、地域クラブ向けに 市の今後の方針等情報交換
令和7年3月	第2回検討委員会 開催 令和6年度の報告、 令和7年度の方針の確認

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（6 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	15 人	全体の運営スタッフ数	6 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
上山RC	地域スポーツ団体等	陸上	月 2 回	8:00~12:00	1年7名 2年8名 3年9名	7~12月	蔵王坊平アスリート ヴァレージ、 山形市陸上競技場	2 人	2 人 （内、兼務 0 人）	年会費 1,300円	中体連のみ：部活動
上山市柔道連盟	地域スポーツ団体等	柔道	月 2 回	19:00~21:00	1年8名 2年6名 3年4名	7~12月	体育文化センター	15 人	2 人 （内、兼務 0 人）	年会費 800円	中体連：部活動 その他：部活動または地域クラブ
上山FC	地域スポーツ団体等	サッカー（新）	週 3 回	18:30~20:30, 9:00~12:00	1年10名 2年20名 3年7名	7~12月	体育文化センター、 南中学校	5人	2 人 （内、兼務 0 人）	年会費 800 円、別途遠征費	中体連：部活動 その他：部活動または地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- ニュースポーツ体験会 普段運動部活動に参加していない生徒も、もっと上のレベルを目指したい生徒も参加できる総合型地域スポーツクラブ主催の体験会 3回実施

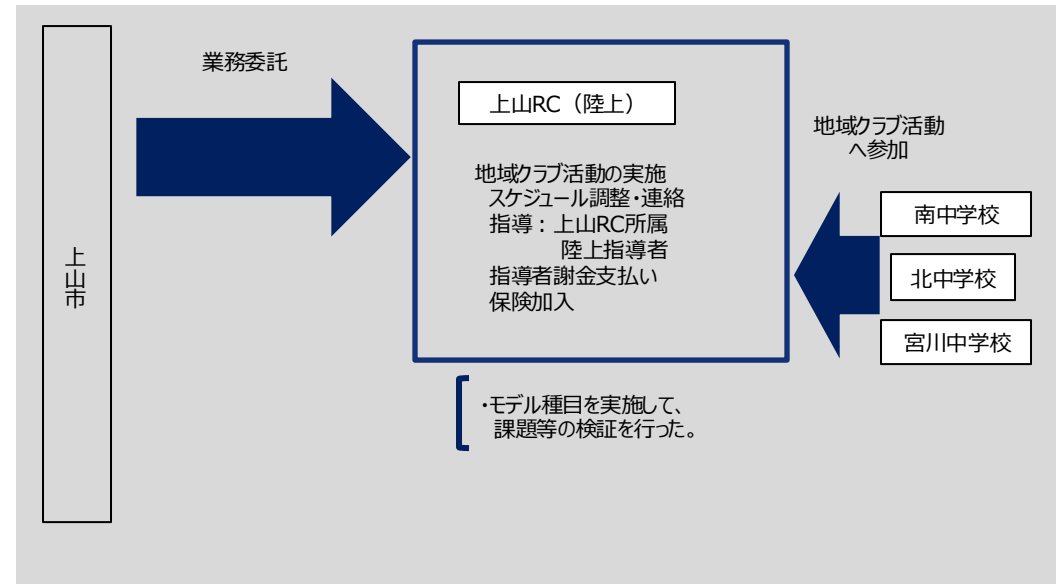
2.実証内容と成果

主な取組例

●上山RC 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上
運営団体名	上山RC
期間と日数	7月1日～12月31日 月2回程度
指導者の主な属性	陸上連盟所属
活動場所	蔵王坊平アスリートヴィレッジ、 山形市あかねヶ丘陸上競技場
主な移動手段	スクールバス、自家用車、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	1,300円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒：800円/年 指導者：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営スタッフ 2名

役割：練習日程調整、会場確保、学校・保護者への連絡、保険加入

●指導者 2名

役割：陸上の技術指導

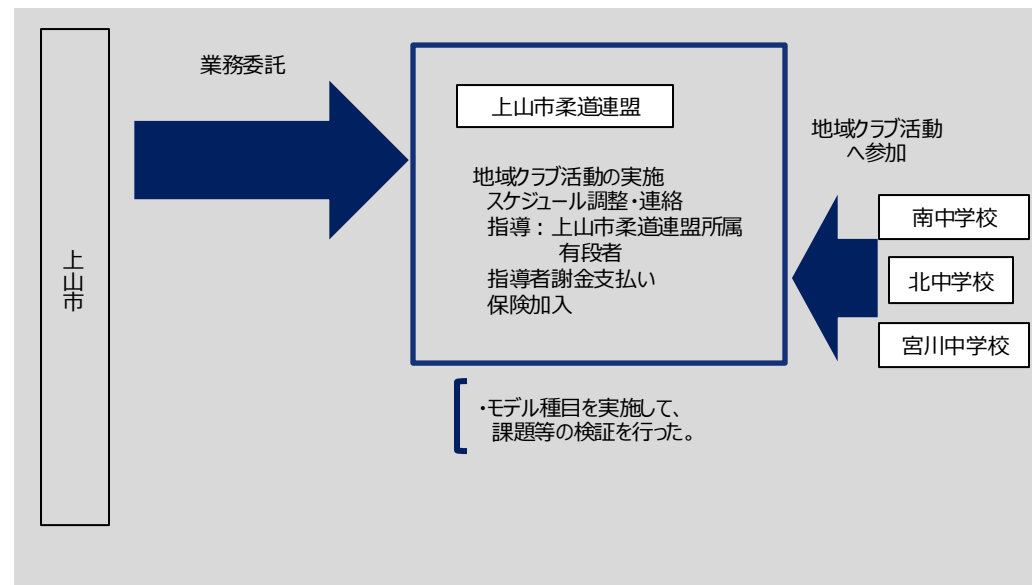
2.実証内容と成果

主な取組例

● 上山市柔道連盟 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道
運営団体名	上山市柔道連盟
期間と日数	7月1日～12月31日 月2回程度
指導者の主な属性	柔道有段者
活動場所	上山市体育文化センター
主な移動手段	自家用車、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	800円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒：800円/年 指導者：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 運営スタッフ 2名

役割：練習日程調整、会場確保、学校・保護者への連絡、保険加入

● 指導者 15名

役割：柔道の技術指導

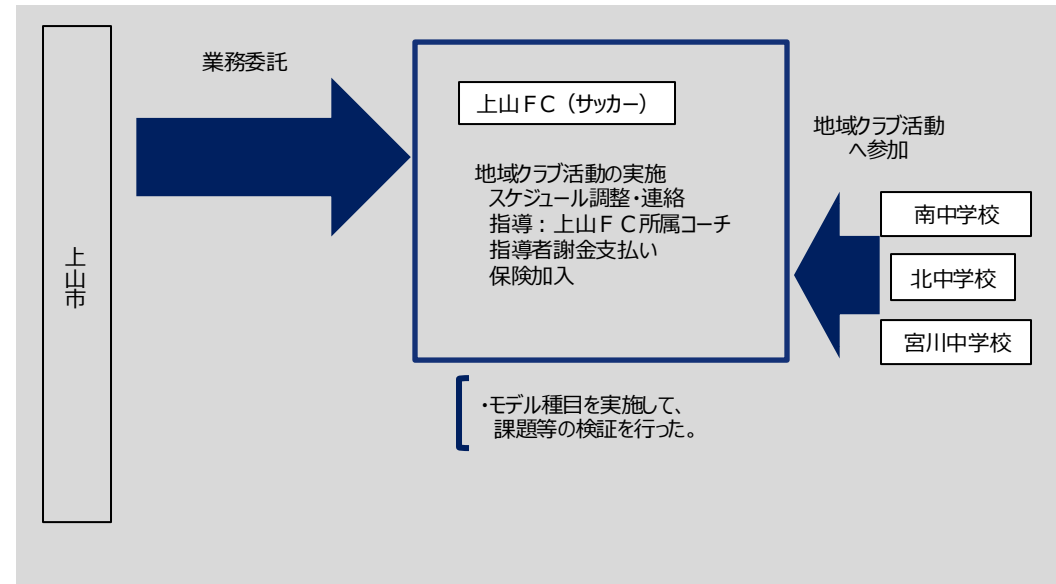
2.実証内容と成果

主な取組例

●上山FC 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	上山FC
期間と日数	サッカー：7月1日～12月31日 週2～3回程度
指導者の主な属性	サッカー経験者
活動場所	上山市体育文化センター、 上山市立南中学校
主な移動手段	自家用車、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	800円 別途遠征費 1,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒：800円/年 指導者：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営スタッフ 2名

役割：練習日程調整、会場確保、学校・保護者への連絡、保険加入

●指導者 5名

役割：サッカーの技術指導

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

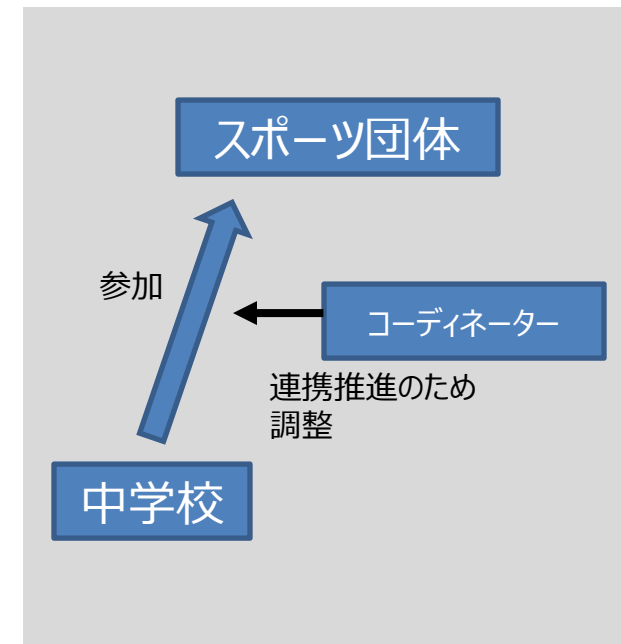
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○総括コーディネーターを1名配置し、関係団体、学校、保護者と連絡調整、助言を行う。

取組の成果

○総括コーディネーターを配置し、関係団体と中学校との連携を図った。検討委員会の開催における準備、議事録などの業務の他、関係者（指導者、中学校教諭、保護者、生徒）へアンケート、ヒアリングなどを行い、情報収集や連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

- 中学校部活動顧問、関係団体、保護者へアンケートおよびヒアリングを実施し、現状把握
- 検討委員会・分科会を開催し地域との連携に努めた

今後の課題と対応方針

- 各種目毎に状況が異なるため、コーディネーター1人では対処しきれない部分があるので、令和7年度はコーディネーターを2人したい。
- 地域クラブを支援しやすいように、公的支援の対象とする地域クラブの基準を調整設定し、登録されたクラブを支援する制度を作っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

指導者確保のため、上山市スポーツ協会および、スポーツ協会所属の各団体へ協力を依頼した。また、令和5年秋に実施した部活動地域移行への協力についてのアンケートを基に、協力可能または可能性があると回答した団体にヒアリングを行った。山形県スポーツ協会が立ち上げた人材バンク（リーダーバンクやまがた）も参照し、生徒のニーズに合う指導者を探した。地域移行の受け皿になりうるスポーツ協会所属のスポーツ団体に対して、指導の質の確保の観点から、県から紹介のあった指導者研修会などの開催要項などの情報を共有し、研修会への参加を打診した。

取組の成果

上山市スポーツ協会からは協力する旨了解を得たが、現在は人材バンクなどは行っておらず、すぐに協力できる体制ではない。当面は各団体への連絡などを取り持ってもらうなどの協力になる見込みである。アンケートの結果、協力できる、または協力できる可能性があると回答した団体にヒアリングをした結果、サッカー上山FCより部活動の受け皿となるべく令和6年度より参加規模を拡大してクラブ運営を試みたいと申し出があったため、新規地域クラブとしてモデル事業に採用した。人材バンク（リーダーバンクやまがた）は参照したが、生徒のニーズにあう指導者が登録されていなかった。今後必要に応じて利用を検討する。

令和7年1月に「中学校部活動 部活動地域移行アンケート」を市内中学生とその保護者に実施した。「地域クラブ活動に期待するもの」の項目における中学生の複数回答結果は、「自身の技術力の向上」は79.9%、「専門性の高い指導」は46.9%であった。同様に、保護者の回答は、「専門性の高い指導」は48.3%、「子供の技術力の向上」は44.3%であった。両者とも、指導者の専門的な技術指導を望んでいることが明らかになり、そのような指導者確保が課題となる。

同時期に、モデルクラブの3団体に所属する中学生に、振り返りのアンケートを実施した。「指導の分かりやすさはどうでしたか？」の項目中、「アドバイスが的確である」には、上山FC中学生が61.5%、上山RCの中学生が92.8%、上山市柔道連盟中学生が33.3%となり、指導について概ね好感を得ている閣下となった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○スポーツ協会、スポーツ少年団、競技団体、大学等との連携に関する取組

○スクールバスや地域クラブが手配した送迎バスの利用に関する取組

取組の成果

○市スポーツ協会役員との打合せを複数回実施し、スポーツ協会の事業計画に盛り込んでもらい、連携して取り組むとともに加盟団体からの協力についても依頼した。

○スポーツ関係団体を対象にして部活動地域移行に関する説明会、分科会を実施し、情報提供を行うとともに意見交換により地域移行についての理解を深めた。

○令和5年度に実施したアンケートをもとに競技団体へヒアリングを実施し、各団体の活動状況や受け入れの際の課題等について現状把握を行った。

○モデル事業で送迎バスを利用した。陸上では練習場所が上山市内から離れているためスクールバスを利用して送迎を行った。サッカーは立上げ当初は市内練習でも市バスで送迎したが、その後、保護者と話し合い、市内では送迎なしとした。市外での練習試合ではレンタカーを利用し送迎を行った。

バス等の運行実績

- ・日数 ①3日（陸上）
②2日（サッカー）
- ・利用者数 各20人程度
- ・運行経路

- ①上山市内～蔵王坊平アスリートヴィレッジ
上山市内～山形市陸上競技場
- ②上山市内～仙台市内
上山市内～真室川町

バス等の運航経費・収入

- ・利用料
- ①陸上 スクールバスを利用、運転手込
13,000～16,000円/回
(10分あたり770円(消費税込))
- ②サッカー レンタカーを利用、指導者が運転
レンタカー代 約30,000円/日
ガソリン代 約3,500～5,000円
別途 高速道路利用料金

今後の課題と対応方針

- ・生徒が取り組みたい種目と指導者の調整が十分ではないので、今後もより広く指導者を求めていく。指導者が指導しやすい環境づくりのため、謝金や、組織体制の整備を行う。
- ・送迎の問題は、財源の問題と、運転手の確保の両方がある。特に運転手の確保は難しく解決にはこれまでとは他の分野との連携を検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

生徒のニーズに応じた活動の検討

活動の詳細			
参加人数	約80 人	指導者数	約10人
属性	部活動を地域移行した形のクラブ数		
具体的な内容	・陸上指導者による、部活動よりも専門的な練習（対象は市内中学生） ・柔道有段者による、部活動よりも専門的な練習（対象は市内中学生） ・サッカー経験者による、部活動よりも専門的な練習（対象は市内中学生）		
子供の声	● 自分の能力が高められたり、課題点を見つけることが出来た。 ● 楽しく専門的な練習ができて良かった ● 技能が高まったがテスト期間に開催しないでもらいたい ● 友達が増えた。プレーの幅が広がった。活動が楽しい。		
関係者の声	● 保護者・生徒との連絡が取りづらい ● 保護者からの会費は徴収しにくいので資金面での支援が行政から欲しい ● 学校によってテストなどの日程が異なるので練習日程が組みにくい ● 送迎してもらえると親の都合に関係なく子供が希望するときに参加させられる		
運営経費 (1回あたり)	・陸上 約31,000円 送迎バス15,000円、指導者謝金12,800円（2人×4hr）、その他経費3,000円 ・柔道 約13,000円 会場費1,200円、指導者謝金9,600円（3人×2hr）、その他経費2,000円 ・サッカー 約19,000円 会場費・照明代5,000円、指導者謝金9,600円（3人×2hr）、その他経費4,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

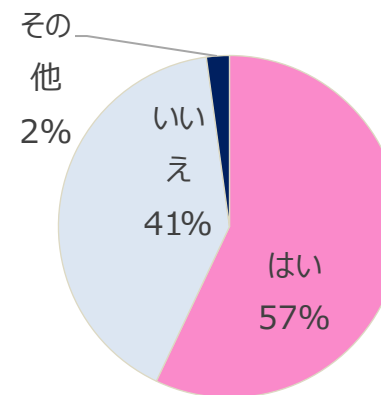
●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

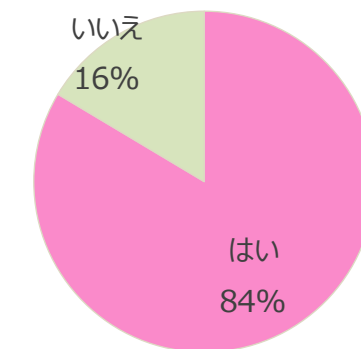
- ・地域クラブでも部活動と同じ種目に参加したい生徒が多かったので、部活動と同じ種目の地域クラブを優先的に整備した
- ・より専門的な指導に対するニーズに対して、部活動顧問と比べてより専門的な知識をもつ指導者をお願いした。
- ・他校生徒との交流に対するニーズに対して、市内全中学生を対象としたクラブとしたので、他校生徒と交流できた。

今後の課題と対応方針

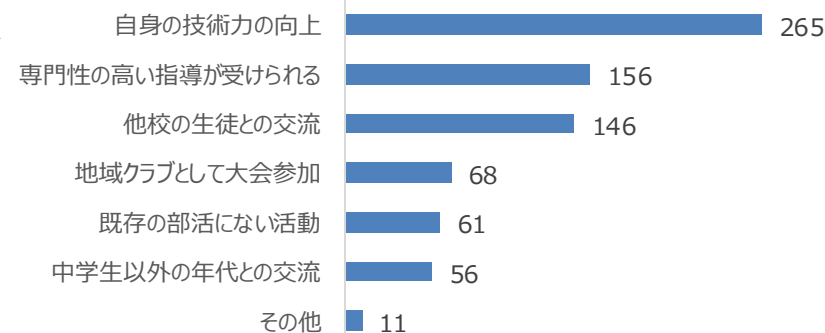
モデル事業で取り組んだ陸上、柔道、サッカーの3種目はともに保護者の協力も得られ、参加者からの反応はおおむね好意的であった。しかし、活動の質を保つために必要な経費を今後全て生徒からの会費で賄うとすると、保護者が支払い妥当と考えている会費では賄うことが難しい。実態にあった会費の徴収を行うため保護者への丁寧な説明と、クラブの内容のさらなる充実、会場の選定や回数の最適化などが求められる。今後回数を増やしていくと更に経費が掛かるため、行政も資金面の補助として会場費の減免、補助金なども検討が必要となる。また、練習日程の調整や連絡について、参加生徒の在籍校が複数あるため、あまりスムーズではなかった。また、クラブ運営には事務処理などの業務が負担となっているので、事務処理を行政が支援するクラブ組織の構築や連絡アプリなどの活用も検討し、指導に集中しやすい環境を整えたい。練習内容の充実のため、指導者研修会などを企画または紹介するなどして、指導者スキルの向上を行政側でも促したい。



Q. 休日に地域クラブに参加しますか？



Q. 休日の地域クラブは部活動と同じ種目ですか？



Q. 休日の地域クラブに期待することを教えてください

出典：市内中学生向けアンケート（令和6年9月実施）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

地域クラブの持続可能な運営のため、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や公的資金のバランスについて検証を行った

地域クラブに係る経費（サッカー 上山FCの場合 会員数約30名）

■イニシャルコストの分析
 特になし

■ランニングコストの分析（1か月 約19万円） 詳細は次ページ参照

- ・会場借料 約50,000円（5,000円/回×10回）
- ・指導者謝金 約96,000円（3人×1,600円/Hr×2Hr×10回）
- ・大会参加費・登録料 約500円/人
 （大会参加費：年間チームあたり 中体連、3,000円、サッカー連盟2,500円、その他試合参加料、
 選手登録料：年間 中体連3500円/人、サッカー連盟700円/人）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続可能な運営に必要な受益者負担額試算を行った
 （検証結果は次ページ参照）

収支バランス

収支バランスについて試算を行った
 （検証結果は次ページ参照）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

令和6年度モデル事業の結果よりクラブ運営収支構造の検証を行った。スポーツ保険料は入会時に受益者が負担することとし、残りの経費を会員数（令和6年度の平均である30名）で月割りし、受益者負担を算出した。陸上と柔道は月2～3回の練習会、サッカーは月10回程度で試合にも参加するなどの違いがある。サッカーは一回あたり経費は630円ほどだが、月10回の練習なので、月会費は6,300円程度となる。一方保護者アンケートでは月会費2,000円程度の回答が最多であり、大幅に乖離がある。陸上は一回あたり1,500円/回で月3,000円、柔道は一回あたり800円で月2,500円となる。保護者のアンケートからは1回500円程度と希望があり、こちらも必要経費との差がある。行政で運営資金面の支援を検討する必要がある。

今後の課題と対応方針

モデル事業の結果から、会員一人あたり1,000円/月の補助金、更には会場費や送迎の補助などが検討必要と考えられる。サッカー上山FCは先を見据えたモデルで練習は月平均10回行われていて、次ページにある月2～3回の活動と比較して、回数も多く、対外試合も含めているため必要経費が高額になる。1,000円/人・月の補助を適応した場合、5,300円程度、さらに会場費を全免すると3,600円程度となる。しかし両方の補助が付く場合、市の負担は年間100万円程度であり、保護者の希望である会費2,000円なることは現実的ではない。陸上では送迎バスが高額となっていることもあり、それぞれのクラブにあった行政の支援方法などを検討し、継続可能な仕組みづくりを構築する。併せて保護者からの理解が得られるよう、必要経費についても説明も丁寧にしていきたい。

支出（1か月あたり）					費用	割合
スポーツ運営費					¥189,117	
項目	単価	回数	人	時間		
諸謝金	1600	8	3	2	¥76,800	39.4%
	1600	2	3	3	¥28,800	14.8%
借損料	会場費	5000	10		¥50,000	25.6%
	レンタカー	30000	0.25		¥7,500	3.8%
消耗品	70000	0.083			¥5,810	3.0%
交通費	8000	0.25			¥2,000	1.0%
雑役務費	140	1			¥140	0.1%
登録料・参加費	500		30		¥15,000	7.7%
保険料	生徒	800	0.083	30	¥1,992	1.0%
	指導者	1850	0.083	7	¥1,075	0.6%
事務運営費					¥2,000	
事務手数料	2000	1			¥2,000	
合計					¥191,117	100.0%

会員数	30名
指導者数	7名

練習回数	
平日(2Hr)	8回
休日(3Hr)	2回



収入				
	受益者負担		公費負担	
	月額	1回あたり	月額	年額
全額	¥6,304	¥630	¥0	¥0
補助金1000円/人	¥5,304	¥530	¥30,000	¥360,000
会場費補助	¥4,637	¥464	¥50,000	¥600,000
更に補助金1000円/人	¥3,637	¥364	¥80,000	¥960,000

出典：令和6年度モデル事業を基にした収支試算 上山FC

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

資料

陸上
上山RCの場合

支出(1か月あたり)					費用	割合
スポーツ運営費					¥61,185	
項目	単価	回数	人	時間		
諸謝金	1600	2	2	4	¥25,600	40.3%
消耗品	70000	0.083			¥5,810	9.2%
交通費	14000	2			¥28,000	44.1%
雑役務費	140	1			¥140	0.2%
保険料	生徒	800	0.083	20	¥1,328	2.1%
	指導者	1850	0.083	2	¥307	0.5%
事務運営費					¥2,000	
事務手数料	2000	1			¥2,000	
合計					¥63,185	100.0%



会員数	20名	練習回数	
指導者数	2名	休日(4Hr)	2回

収入				
	受益者負担		公費負担	
	月額	1回あたり	月額	年額
全額	¥3,093	¥1,546	¥0	¥0
補助金1000円/人	¥2,093	¥1,046	¥20,000	¥240,000
交通費補助	¥1,693	¥846	¥28,000	¥336,000
更に補助金1000円/人	¥693	¥346	¥48,000	¥576,000

柔道
上山市柔道連盟練習会の場合

支出 (1か月あたり)					費用	割合
支出					費用	割合
スポーツ運営費					¥35,411	
項目	単価	回数	人	時間		
諸謝金	1600	3	3	2	¥28,800	76.6%
借損料	会場費	1100	4		¥4,400	11.7%
雑役務費	140	1			¥140	0.4%
保険料	生徒	800	0.083	15	¥996	2.6%
	指導者	1850	0.083	7	¥1,075	2.9%
事務運営費					¥2,000	
事務手数料	2000	1			¥2,000	
合計					¥37,411	100.0%



会員数	15名	練習回数	
指導者数	7名	平日(2Hr)	2回
		休日(2Hr)	1回

収入				
	受益者負担		公費負担	
	月額	1回あたり	月額	年額
全額	¥2,428	¥809	¥0	¥0
補助金1000円/人	¥1,428	¥476	¥15,000	¥180,000
会場費補助	¥2,134	¥711	¥4,400	¥52,800
更に補助金1000円/人	¥1,134	¥378	¥19,400	¥232,800

出典：令和6年度モデル事業を基にした収支試算 上山RC、上山市柔道連盟

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

受益者負担を軽減するべく体育施設の減免の必要性を検討した。

取組の成果

上山市内にある利用可能な体育施設は、学校施設と公共体育施設があり、どちらも利用料が必要となる。施設利用料については市内在住の参加者が半数以上である場合は減免対象であるが、照明など電気料金がかかる項目に関しては、実費となるため、減免対象外となっている。しかしながら、部活動を地域クラブへ移行する場合、指導者の指導可能な時間が短い時間であることが多く、照明の利用が見込まれる。令和6年度のモデル事業ではサッカー上山FCが夜間の練習が多く、施設利用料が毎回5,000円程度かかっており、必要経費の多くを占めている（約25%）ことがわかった。また、別の地域スポーツクラブで今後利用が見込まれる野球場の照明施設は更に高額で11,000円/120分と設定されている。

今後の課題と対応方針

グラウンド照明については水銀灯を利用しているため、電気料金が高く、減免するとその費用は行政負担となる。負担できるように財源を確保する、もしくは電気料金の安価な別の施設（市内高等学校施設を利用申請中）で活動できるように整備、調整するなどして、受益者の負担を減らすようにしていきたい。

球 場	アマチュアスポーツ使用時	1時間につき	490	990
	職業野球使用時		その都度定める	
	ナイターカード 全灯／(2/3灯)		市 内	市 外
		90分(約120分)	8,250	16,500
120分(約160分)		11,000	22,000	

グラウンド	グラウンド		1時間につき	330	660	
	放 送 設 備			440		
	夜間照明施設	全灯使用		4,400		
		1／2使用		2,200		

出典：令和6年度上山市体育施設利用料金一覧（税込）

支出（1か月あたり）					費用	割合
スポーツ運営費					¥189,117	
項目	単価	回数	人	時間		
諸謝金	1600	8	3	2	¥76,800	39.4%
	1600	2	3	3	¥28,800	14.8%
借損料	会場費	5000	10		¥50,000	25.6%
	レンタカー	30000	0.25		¥7,500	3.8%
消耗品	70000	0.083			¥5,810	3.0%
交通費	8000	0.25			¥2,000	1.0%
雑役務費	140	1			¥140	0.1%
登録料・参加費	500		30		¥15,000	7.7%
保険料	生徒	800	0.083	30	¥1,992	1.0%
	指導者	1850	0.083	7	¥1,075	0.6%
事務運営費					¥2,000	
事務手数料	2000	1			¥2,000	
合計					¥191,117	100.0%

出典：令和6年度モデル事業を基にした収支試算 上山FC

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

上山市は令和6年度は3種目の地域スポーツクラブに対してモデル事業を行った。昨年度は個人種目である陸上と柔道で実施したが、令和6年度は団体種目であるサッカークラブを追加した。これらのクラブはいずれも市内中学生の希望者はだれでも加入可能であるが、実質は部活動の部員が会員の大半を占めている。会員は、学校の枠をこえて市内の中学生と一緒に、部活動よりも専門的な指導者から指導が受けられた。陸上、柔道については月2～3回の練習会が開催され、サッカーについては平日も含め月10回の練習会だけでなく、対外試合などにもチームとして参加するなどの活動も行っており、平日の部活動地域移行も視野に入れた取り組みとなっている。参加者の評価はおおむね好意的であり、令和7年度以降も継続を検討している。しかし今後もクラブを運営していくための課題として、経費の受益者負担、会場の確保、送迎、連絡方法等、事務処理の負担について課題が抽出された。特に経費については指導者の都合により練習開始時間が午後7時以降となるケースが多く、照明施設があり、また、市内どこからでもアクセスしやすい場所ということで、学校施設ではなく利用料金の高い公共運動施設を利用する場合が多かった。また陸上では遠方の体育施設を利用するため、送迎バスを運行し費用がかさんだ。また事務処理が負担であることや連絡が難しいとの意見もあったため、今後は受益者負担と公費のバランス、運営事務の支援や連絡手段についても検討したい。

●成果の評価

団体種目のサッカーの地域クラブ上山FCをモデル事業に追加することで、さらに様々な種目に応用できる地域スポーツクラブの運営を検証できた。これまであまり問題とならなかった場所の確保の難しさ、試合出場など、団体種目ならではの課題が見つかった。陸上は参加者の満足度も高く、活動がうまくいっているが、練習場が遠方にあることから、会員を増やしたり回数を増やしたり一人当たりの会費負担を減らす工夫が必要となる。柔道は専門の指導者がおり、恵まれた環境であるため、情報公開等によって参加しやすい環境をつくり、会員を増やしていきたい。

●今後に向けて

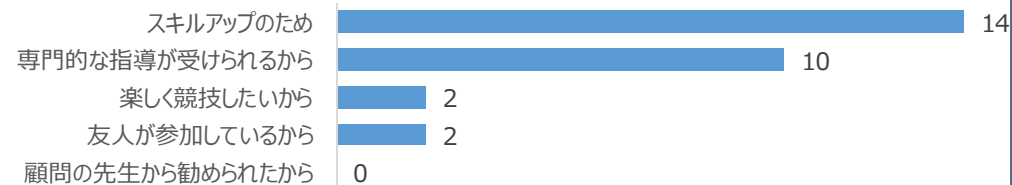
今後は別の競技種目での検証も行い、受益者負担と行政負担分のバランスの検討や、会場の確保・利用料の設定、送迎や、連絡方法などについて改善し、クラブ運営が継続しやすい環境を構築していく。クラブ運営の負荷を軽減するため、事務処理などの指導以外の部分は総合型地域スポーツクラブに委託し、支援できる体制を検討する。連絡方法については、連絡アプリなどの導入も検討する。

2.実証内容と成果②

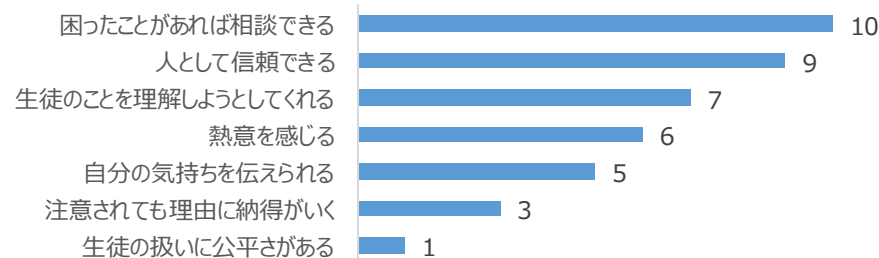
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

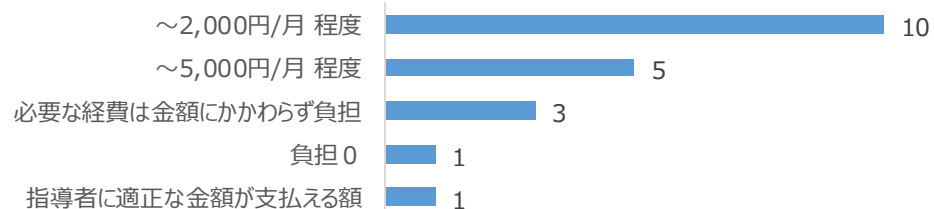
Q.地域クラブに参加した動機



Q指導者との関係は？



Q月会費として支払える金額は？



●参加者の声

中学生

普段とは違って刺激になった
顧問の先生よりもとても分かりやすく教えてくださった
楽しく専門的な練習ができて良かった
スキル向上することができた
他の学校の人と関わってよかった
一生懸命に取り組めてよかった
用品の準備をして欲しい
テスト期間に開催するのを控えてほしい

保護者

始めは部活動の地域移行からですが、中学を卒業しても、競技を続けたい人が集まり、教えられたり教えたりする場がある事で、本人だけでなく地域にも根付くのではないかと思います。真剣に向き合っていただいたことに感謝しかありません。生徒とはもちろんですが、親とも信頼関係を築いていただいた。

指導者（など）

部活の予定が決まらなないとクラブの予定が組みにくい。
クラブチームと部活動の良い所を両方引継げる様な組織作りとサポート体制を構築したいです。
運営資金の援助や会場の予約の簡略化

出典：モデル事業参加者令和7年1月実施

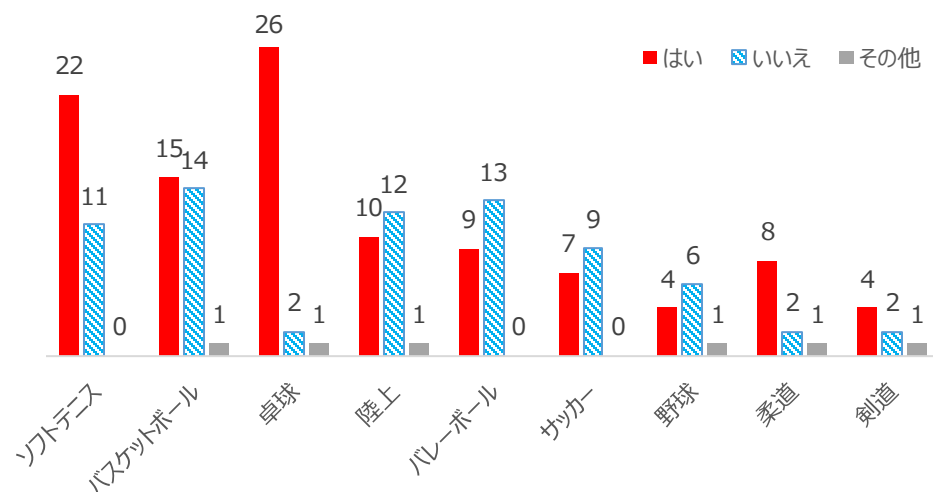
2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

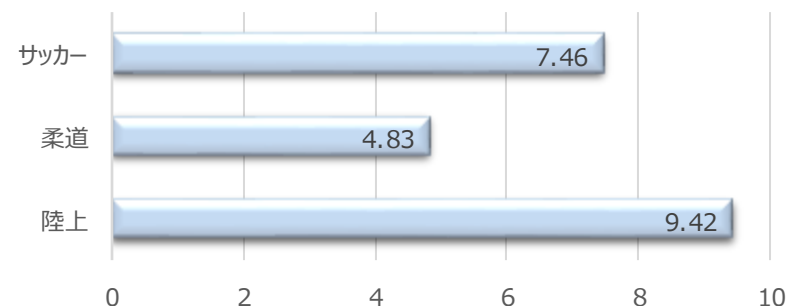
地域移行を想定した地域クラブモデル事業は、母体が部活動であったため
会員募集はチラシなど作らず、顧問の先生や関係者を通じての勧誘となっ
た。アンケートは令和6年春に部活動の地域移行に関する内容で教師、

生徒、保護者に対して実施した。また、モデル事業として取り組んだ3種
目については、委託期間終了後令和7年1月に参加者、保護者、指導
者に対してアンケートを行った。

モデル事業として取り組んだ地域移行を想定した地域クラブは、チラシなど作らず、顧問の先生や関係者を通じての勧誘であったため、活動開始は少人数であったが、口コミで広まり、モデル事業が終わる12月には部活動を引退した3年生の中で会員となり競技に取り組む生徒もでてくるなど、予想していたよりも会員数が多くなった。アンケートの結果からも、クラブ活動開始前の春に行われた結果では、通常の部活動と同じ種目をするに積極的ではなかった生徒も多かったが、モデル事業終了後のアンケートでは今後も続けたいという生徒が多く、全体としては満足度が高かった。今後は広く会員を募るため、募集チラシを作成したり、SNSなどオンライン上での情報公開や会員募集なども行っていきたい。またアンケートのフィードバックも適宜行い、質の向上に役立てたい。



【アンケート結果 市内中学生対象
土日の地域クラブでは部活動と同じ種目に参加するか？】



【アンケート結果 モデル事業参加者対象
地域クラブ活動に参加しての満足度 (満点10点)】

出典:アンケート①市内中学生対象 部活動地域移行について令和6年7月実施
②モデル事業参加者アンケート令和7年1月実施

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【陸上 上山RC 練習風景】



【サッカー 上山FC 練習風景】



【柔道 上山市柔道連盟 練習風景】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、市役所、市教育委員会、スポーツ協会

●経過

令和5年度より検討委員会を設置し、地域クラブの方向性について検討している。令和6年4月より部活動任意加入となり、同9月より、月一回の土日部活動完全休養が導入された。令和7年秋より月2回土日部活動完全休養、令和8年度からの休日部活動の完全地域移行を目指す。

●実施内容、工夫した点

PTA総会などを利用して部活動地域移行についての説明会を開いた。

検討委員会を2回、分科会を2回開催した。

学校や生徒、保護者をはじめ、地域のスポーツ団体へアンケートを実施した。

また令和5～6年はモデル事業として2～3団体の運営状況を検証した。種目は個人種目と団体種目のどちらも検証できるようにした。

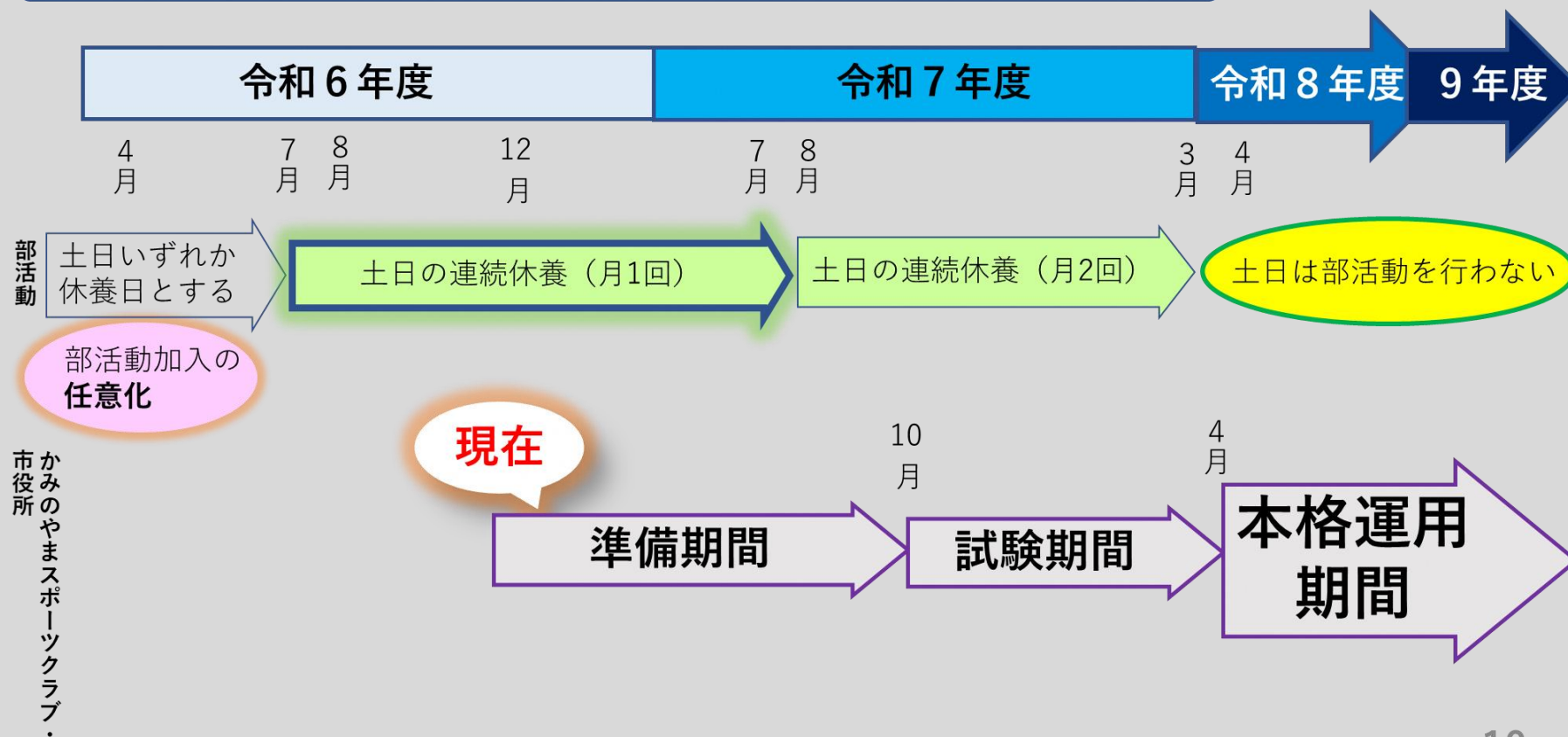
●実施にあたって生じた課題と今後

モデル事業を3団体で行い、クラブ運営に係る経費を算出したところ、運営経費は高額で、その全てを受益者負担とすることは、保護者への負担が大きい。一方で保護者の希望する月会費の額では行政の負担が大きすぎるため、会場の変更や会場費の減免措置、回数などを工夫するなどして、バランスをとっていきたい。またクラブ運営は指導以外に事務処理などの煩雑な仕事が多く、指導者の負担となっていることも分かった。これを解決するために、上山市では総合型地域スポーツクラブに委託し、地域クラブの共通する事務処理を支援する試みを令和7年度から検討していきたい。また、複数校の生徒が参加することで、連絡が取りづらい状況があり、今後は、連絡アプリなどを利用していきたい。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

上山市における今後の部活動地域移行の進め方



出典: 上山市主催 第一回中学校部活動地域校分科会での説明資料

10